



警告 のニュースレター「角笛」

発行日：2013年11月発行（第43号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー（無料）

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

目次：

◎巻頭メッセージ「北の王と南の王」エレミヤ

◎証「礼拝のメッセージを通して」E3

◎お知らせコーナー 「黙示録セミナー」

< 巻頭メッセージ >

「北の王と南の王」 by エレミヤ

本日は、「北の王と南の王」として、このトピックを見ていきたいと思えます。

ダニエル書は終末の日に関する預言の書です。この書のそれぞれの章は、それぞれ、終末の日を別の面、それぞれ異なった角度から描写しています。

本日の箇所、ダニエル11章は、北の王と南の王という角度から、終末の日を描写しています。本日はこの箇所を見て行きたいと思うのです。

< 北の王、南の王という描写 >

このダニエル11章の記述の意味合いは第一義的には、ダニエルの時より、未来に起きることの預言、描写です。北にあるギリシャ国と、南にあるエジプトなどとの戦いやら、同盟、を前もって預言したものなのです。そして、その預言は正確であり、未来の歴史はこの章に預

言されているように実現しました。この章の中には、クレオパトラを含む歴史の人物の動向が正確に預言されており、その預言の様に歴史は成就しているのです。

このことは第一義的な意味合いであり、聖書の表の面です。しかし、聖書は、黙示録に表にも裏にも文字の書いてある巻物として描写されているように、単に表の面だけではなく、裏の意味合いもあることを思い出しましょう。

北の国、南の国に関する第2義的な意味合い、裏の意味合いは何でしょう？この章では、具体的なギリシャだの、シリアだの、エジプトだのの国名は記述せず、一貫して全ての歴史は、北の国、南の国の表現で描写され、説明されています。このことには、何か意味がある、隠れた意味がある様に思えます。その隠れた意味合いとは何なのでしょう？

< 神の国は北の国、南の国とに分けられる >

この時、思い出すことは、旧約の神の民の国であるイスラエルは北の国と南の国とに分裂

したことです。そして、新約の神の民の国である教会も同じく2つに分裂しています。カソリックとプロテスタントとの分裂です。旧約の北の国であるイスラエル国は、偶像崇拜、バアル崇拜に明け暮れ、神の怒りがかかった国です。同じく新約のカソリックもマリヤ崇拜、法王崇拜など、偶像崇拜に明け暮れています。ですので、新約の北の国はカソリックと理解できます。

結論として、このダニエル11章の隠れた意味あい、終末の日、艱難の日における北の国、カソリックと南の国、プロテスタントの動向に関する未来への預言、そのように理解できるのです。この視点に基づき、ダニエル11章を見ていきましょう。順に見ます。

＜カソリックの侵攻の下で艱難時代の到来、反キリスト擁立がある＞

“ダニエル11:25 彼は勢力と勇気を駆り立て、大軍勢を率いて南の王に立ち向かう。南の王もまた、非常に強い大軍勢を率い、奮い立ってこれと戦う。しかし、彼は抵抗することができなくなる。彼に対してたくらみを設ける者たちがあるからである。”

ダニエル11章には、荒らす忌むべきものや、反キリストの記述などがありますが、それらの記述と平行して北の王、南の王の記述があります。このことを通して何がわかるのでしょうか？

このことがわかります。すなわち、北の王と南の王との戦い、たとえの意味合いとしては、カソリック、プロテスタントとの間

の争いや主導権争いが、終末の教会のありさまと大いに関係することがわかるのです。そしてさらにそれらの両者の関係をよく見るなら、北の王が南の王の国に攻め込んで行く、それにつれて、荒らす忌むべきものが据えられたり、反キリストが席卷するなどの終末の一連の冒瀆的なできごとが進んでいくことが理解できるのです。

それで、この章の語っていることは、反キリストの登場などの全ての終末の冒瀆は、北の国であるカソリックが全世界のキリスト教会を席卷するその中で、行われる、そのことを語る、そう理解できるのです。

具体的には、いずれ、カソリックがプロテスタントを支配するようになり、結果、カソリックのあらゆるおかしい教理がプロテスタントの教会を覆うようになる、そのように理解できます。

“11:27 このふたりの王は、心では悪事を計りながら、一つ食卓につき、まやかしを言うが、成功しない。その終わりは、まだ定めの際にかかっているからだ。”

このふたりの王、すなわちカソリックとプロテスタントは、一つ食卓につく、すなわち、同じ聖餐式、同じ礼拝を持つようになります。すなわち、現在進んでいるエキュメニカル運動がいずれ、成功しプロテスタントは、カソリックと同じ聖餐式、同じ礼拝をするようになるのです。具体的にいうなら、カソリックの冒瀆的な教理が強制的にプロテスタントの教会へ導入され

る、その教理で全世界の教会が統一されるようになることを語ると思われま

11:30 キティムの船が彼に立ち向かって来るので、彼は落胆して引き返し、聖なる契約にいきりたち、ほしいままにふるまう。彼は帰って行って、その聖なる契約を捨てた者たちを重く取り立てるようになる。

「聖なる契約にいきりたち」と書かれているように、北の国、すなわち、冒流的なカソリックは、いずれ神とクリスチャンとの間に結ばれた聖なる契約にいきりたち、反対、敵視するようになります。

現時点ですでにカソリックは、キリストとクリスチャンとの間に結ばれた永遠の契約に反するようなことを公然と述べています。すなわち、人がキリストを信じなくても、良心に従って歩んでいるなら、救われるなどとのキリストとの永遠の契約に反するようなことばをローマ法王が公然と発しているのです。

このようなカソリックの主張は時代が進むにつれ、さらにエスカレートしていき、ついには、どこまでも正しくキリストとの契約を守ろう、みことばを守ろうとする人々を異端視し、迫害するようになるでしょう。それが、「聖なる契約にいきりたち」と書かれたことばの意味合いです。

「その聖なる契約を捨てた者たちを重く取り立てるようになる。」

終末の日、カソリックとプロテスタントが合同した教会においては、どこまでもキリストのみことばに忠実であろうとする人々は異端視され、迫害されます。逆にそのキリストのことばを破り、「必ずしもキ

リストを信じなくても救われる」などと冒流的な教理を振りかざす人々はこの冒流の教会において、重く取り立てられるようになります。

“11:31 彼の軍隊は立ち上がり、聖所ととりでを汚し、常供のささげ物を取り除き、荒らす忌むべきものを据える。”

彼の軍隊、すなわち、愚かな教えに従うカソリックの信徒たちのゆえに、「聖所ととりで」は汚されます。聖所すなわち、神への真の礼拝は汚され、異端扱いされるのです。さらに「常供のささげ物」が取り除かれます。キリストへの忠実な奉仕や祈り、が教会から取り除かれてしまうのです。

さらに、「荒らす忌むべきもの」が聖所に据えられます。荒らす憎むべきものとは、反キリストのことです。彼は教会を荒らす、忌むべき存在です。

“11:33 民の中の思慮深い人たちは、多くの人を悟らせる。彼らは、長い間、剣にかかり、火に焼かれ、とりことなり、かすめ奪われて倒れる。”

カソリックの冒流がプロテスタントの各教会を席卷する中で、多くのクリスチャンは「長い間、剣にかかり、火に焼かれ、とりことなり、かすめ奪われて倒れる。」ようになります。

剣は、「御霊の剣、すなわち、神のことば」とあるように、みことばや教理のたとえです。多くのプロテスタントのクリスチャンが剣、すなわち、カソリックのインチキ教理に倒されていくことを語っているのです。

火はすなわち、霊のたとえです。ですの

で、「火に焼かれ」とは、カソリックの惑わしの霊の影響を受けることを語るものです。

“11:36 この王は、思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高め、大いなるものとし、神の神に向かってあきれ果てるようなことを語り、憤りが終わるまで栄える。定められていることが、なされるからである。

11:37 彼は、先祖の神々を心にかけず、女たちの慕うものも、どんな神々も心にかけない。すべてにまさって自分を大きいものとするからだ。”

ここに書かれている記述は反キリストに関する記述です。「すべての神よりも自分を高め、大いなるものとし」とは、すなわち、反キリストは自身を教会の神であるキリストより、偉大な神とする、ということです。そして、それは、以下の反キリストに関する記述と一致します。

“2テサ2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。”

宮とは、新約の神の宮である教会のことであり、その教会のど真ん中、キリストが座していた座に反キリストがすわり、自分こそ神である、と宣言するわけです。その結果、真の神であるキリストは教会から追い出されるようになります。これは、大変な冒瀆です。

そして、そのキリストへの冒瀆、また、罪の人である反キリストが教会の神の座に着く、それらの全ては、北の王、すなわち、カソリックを基点として起きることを理解しましょう。そして、それこそが、ダニエル書11章に北の王が席卷すると書かれていることの真の意味合いなのです。

“11:39 彼は外国の神の助けによって、城壁のあるとりでを取り、彼が認める者には、栄誉を増し加え、多くのものを治めさせ、代価として国土を分け与える。”

外国の神の助けとは何を意味しているのでしょうか？私の理解では、キリスト教にとって外国の神である仏教やイスラム教のことと思われます。

カソリックはこれらの異教の神々を受け入れ、そのことを受け入れない正しいクリスチャン達を逆に、宗教的に非寛容な人々などとの、とんでもないいいがかりをつけ、異端視する、そのようになると思えます。そして、このことは、現代のカソリックではすでに行われつつあることがらなのです。

“11:40 終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて、彼を襲撃し、国々に侵入し、押し流して越えて行く。”

ここにも終わりの時に、北の王が南の王と戦うこと、そしてその戦いの結果、南の王の国が北の国により席卷されることが描かれています。このことばはいずれ成就し、南の国プロテスタントの教会はカソリックにより、侵入され、押し流されていくようになるでしょう。

押し流すとは水と関係あることばであり、霊的なことをたとえています。具体的には、カソリックのおかしな霊がどのプロテスタント教会をも席卷していく、そのことを語ると思われます。

＜カソリック主導の迫害に加わる人々はキリストの再臨の日に裁かれる＞

そしてこのカソリックによる、プロテスタントの正しいクリスチャンへの迫害、席卷の日はエゼキエル書の中で預言されています。以下のとおりです。

“エゼキエル38:14 それゆえ、人の子よ、預言してゴグに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民イスラエルが安心して住んでいるとき、実に、その日、あなたは奮い立つのだ。

38:15 あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。

38:16 あなたは、わたしの民イスラエルを攻めに上り、終わりの日に、あなたは地をおおう雲のようになる。ゴグよ。わたしはあなたに、わたしの地を攻めさせる。それは、わたしがあなたを使って諸国の民の目の前にわたしの聖なることを示し、彼らがわたしを知るためだ。”

このエゼキエル書の箇所でもカソリックによる正しい民への迫害、艱難の時を北からの災いとして預言されています。そして、その迫害、艱難時代の結末も同じく書かれています。下記のとおりです。

“エゼキエル38:18 ゴグがイスラエルの地を攻めるその日、——神である主の御告げ。——わたしは怒りを燃え上がらせる。

38:22 わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼と、彼の部隊と、彼の率いる多くの国々の民の上に、豪雨や雹や火や硫黄を降り注がせる。

38:23 わたしがわたしの大いなることを示し、わたしの聖なることを示して、多くの国々の見ている前で、わたしを知らせるとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。”

カソリック主導の迫害、艱難時代は、主の直接的介入により収まり、逆に冒涇のカソリックのインチキ教理を受け入れた人々はその日、神の裁きに入ることがわかるのです。

まとめますが、ダニエル11章の主旨、ポイントは、終末の日の艱難時代の到来は、カソリックによるキリスト教会統一、席卷の後、起きることを明らかに預言します。このことを心に留め、この時代における正しい道を歩みましょう。

—以上—



異教のリーダーと並ぶローマ法王

前も話したと思いますが、レムナントキリスト教会の礼拝は、午前は新約聖書から、午後は旧約聖書から学びをしています。そして9月下旬、詩篇25篇のメッセージを通して素晴らしい教えを受けまして、自分一人だけにしておくのはもったいない！という導きを感じましたので、証をさせていただくことにしました。せっかくでするので、その箇所のみことばを見てみましょう。

参照 詩篇25:4,5

25:4 主よ。あなたの道を私に知らせ、あなたの小道を私に教えてください。

25:5 あなたの真理のうちに私を導き、私を教えてください。あなたこそ、私の救いの神、私は、あなたを一日中待ち望んでいるのです。

4節では「道」とか「小道」ということばが使われています。ちなみに詩篇25篇全体は、「道」について書かれています。どんな道か？と言うと、「永遠の命への道」です。また、福音書に、「いのちに至る門は小さく、その道は狭い」と書かれているように、その道、すなわち永遠の命に通じる道は、「狭い」のです。しかも、「それを見出す者はまれ」とまで書かれています。単に「狭い」だけでなく、「見出すことすら困難」と言われているのです。これってキリスト教会で言われている常識とは大分違うかも知れませんよね。もしかすると大半の教会では、「天国への道は広いですよ」とまで言わなくて

も、しかし洗礼を受けてクリスチャンになれば天国に行けますなんてことが言われていませんか？私事ではありますが、今までいくつかの教会や集会に参加したことがありますが、少なくとも天の御国への道が「狭い道」というメッセージを聞いたことはありませんでした。ただ、そうだとしても・・・すべてにおいてみことばが語っていることが真実なので、たしかにそうなのではないかなあとと思います

さて、「命に至る道が狭い、そして見出す者はまれである」のは事実ではあります。だからと言って、諦める必要はないのです。「まれ」とはありますが、「皆無」とは言っていないのですから、見出すチャンスはあるのです。では、あっても、「じゃあ、誰がいったい天国に入れるの？どうしたらいいの？」と、疑問を持つ方もいるかもしれません。そういう人に朗報があります。ズバリ、25篇のみことばにヒント&答えが書かれています。その日のメッセージを聞いていただくのが一番早いのですが、そんな時間は無いという方もいると思いますので、手身近に話をさせていただきます。

「あなたの真理のうちに私を導き、私を教えてください」のことばが、その答えです。

メッセージの中で教えていただいたことですが、「**教えてください**」とあるように、もし、本当に天の御国に入りたいのなら、そんな風に私たちの側で神様に聞いていかなければいけないのです。なぜか？神様のみに救いがあり、命に至る道はとても分かりづらいので、きちんと祈り求めていかなければいけないのです。残念ながら、人に聞いたり、はたまた注解書や教理の本から探し出そうとしても見つかりません。神様にダイレクトに祈って聞く、それに尽きるのです。以前からあらゆることを通して「命への道は狭い」ということは多少なりとも理解していましたが、翌日から早速このことを実践してみました。毎日の祈りの中に取り入れることにしたのです。「今日も永遠の命に至る道を教えてください、導いてください」と。するとその直後から神様が改善すべき点に関して更に示してくださるようになりました。自分の思いや考えはともかく、神様の目から見て、「ここは直してほうが良い」という点について、はっきりした示しが与えられるようになりました。しかもそれだけでなく、みことばを通して大事なことを教えてもらえるようになりました。

そして少し前から、やはり詩篇の学びを通してですが、ダビデが、「**どうか、私の隠れている罪をお赦してください**」というお祈りを神様に捧げている箇所があって・・・その学びを通して、

「神様の目から見て、自分では気づいていない罪もまだまだ沢山あると思います。よろしければ憐れんでくださって、赦してくださって、悔い改めへ導いてください」というお祈りをはじめようになりました。断定はできませんが、もしかすると今回の25篇のみことばと、今の二つのみことばが折り重なって、また、聖書で奨励している祈りでもありますので、神様が憐れんでくださって応えてくださったのでは？と思います。

それから当たっているかどうかは分かりませんが、ひよっとすると、「命に至る狭い道」とは、その時々神様が示してくださる方向性に沿ってひたすら歩いていくことなのでは？と、個人的にはそんな風に思いました。補足までに・・・ミカ書6章8節には、「**人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行ない、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。**」とあります。これは神様のおすすめする方向にひたすら歩いていくこととまさに符号するように思います。みことばから正しい教理を学ぶのも、奉仕をするのも大事、でも、それにもまさって神様の前に誠実と真実を尽くして歩むこと、へりくだって聞き従うことこそ神の前に価値のある歩みであり、それゆえに狭い道であるとも言われているようにも思います。

裏返すなら、従いづらいことを示されても、主の前に応じていくのか？ちゃんとやっていくのか？と、いうことを言われていると思います。

そのためには先程も申し上げたように、まず神様にちゃんと聞いていくことです。そして示されたなら、きちんと悔い改めていきたいと思えます。そうするなら地上においても祝福や恵みに入り、最後まできちんと全うするなら後の世に神様から誉れを受けるのでは？と、思えます。反対に、もし、そのことを祈り求めていかないなら、あわや滅びに至る大きな門、広い道を歩んでしまう可能性がありますので、ぜひ命

に至る小さな門、狭い道を祈り求めていきたいと思えます。色々と誤りや間違いや失敗の多い者ではありますが・・・私個人としてはこれからも、そして生きながらえている間、このお祈りを継続していきたいと思えます。そして示しを受けたときには、聖霊様の助けと憐れみと力と知恵を求めて従っていきたいと思えます。神様の素晴らしい導きと御わざをほめたたえ、感謝します。いつも大切なことを語ってくださる神様に栄光と誉れがありますように。

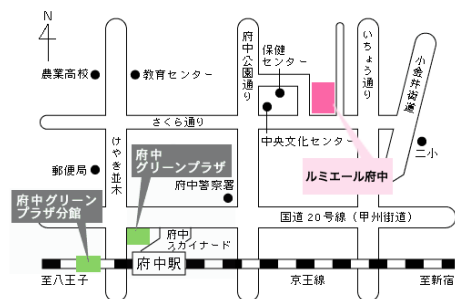
—以上—

<お知らせコーナー>

●レムナントキリスト教会日曜礼拝：

午前:10:30-12:30, 午後 14:00-16:00 場所：東京、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館(tel 042-360-3311)

場所の url: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html



●第 32 回黙示録セミナー by エレミヤ

黙示録、ダニエル書等終末に関するトピックを解説するセミナー。

北海道から、広島から熱心なクリスチャンが参加しています。

場所:府中グリーンプラザ本館第 5 会議室(7F) 場所は上記。

日時: 2014 年 1 月 12 日(日)PM6:00-8:30

費用:入場無料、ただしテキスト代 1000 円(当日徴収)

定員:20 名(先着申し込み順。満員しだい締め切り)

主催:レムナントキリスト教会(tel 042-306-5002)

申し込み:メールもしくは fax で「名前、住所」記載の上、セミナー参加希望と申し込みください。

Fax 020-4623-5255 e-mail: truth216@nifty.com